

大津企業景況調査報告書

(第45回)

平成21年 4月～ 6月期 実績

平成21年 7月～ 9月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成21年4月～6月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

| 産業別 | 調査対象企業数 | 有効回答企業数 | 回収率 |
|-------|---------|---------|--------|
| 建設業 | 20社 | 19社 | 95.0% |
| 製造業 | 10社 | 10社 | 100.0% |
| 卸売業 | 10社 | 9社 | 90.0% |
| 小売業 | 30社 | 27社 | 90.0% |
| サービス業 | 30社 | 28社 | 93.0% |
| 合計 | 100社 | 93社 | 93.0% |

3. 調査期間

調査対象期間は平成21年4月～6月とし、調査時点は平成21年6月3日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index(景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」「好転」したなどとする企業割合から「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

今回の調査から調査対象企業の一部入れ替えを実施した。変更の目的は中小企業を対象とするようにしたものである。

入れ替えたのは、建設業で3社、製造業で3社、卸売業で1社、小売業で6社、サービス業で12社の計25社である。

これにより、調査結果に一定の影響があると考えられる。

景況感、悪化のテンポ和らぐ

平成21年4月～6月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数(景気動向指数)を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は前期は平成10年に本調査を開始して以来、過去最悪となったが、今期は厳しい状況にあるものの悪化のテンポは和らいでいる。ただし昨年来、売上減少傾向が続いており、業績・採算の悪化から資金繰りが悪化している。雇用面でも過剰感が続き厳しい状況である。製造業、小売業、サービス業の業況はやや持ち直したが、建設業、卸売業は悪化が続いている。

□ 業況判断DI(前年同期比)は下げ止まりの動きもみられる

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前期、過去最悪となった▲58から▲54に改善し、下げ止まりの動きもみられる。業種別にみると、製造業、小売業、サービス業はやや持ち直したが、建設業、卸売業は悪化が続いている。

□ 売上DI(前年同期比)はすべての産業で大幅減少が続く

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前期大幅悪化した▲69同様今期も▲69で売上の低迷が続いている。業種別にみてもすべての産業で売上の大幅減少が続いている。

□ 採算DI(前年同期比)は下げ止まり傾向

「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は前期の▲61から今期▲55と下げ止まり傾向がみられる。「採算(経常利益)水準」指数(「黒字」－「赤字」)は前期▲23から今期▲31と赤字企業が増加している。これは調査対象企業を中小企業にした影響もあるとみられる。業種別にみると、建設業以外は採算悪化に下げ止まりがみられる。

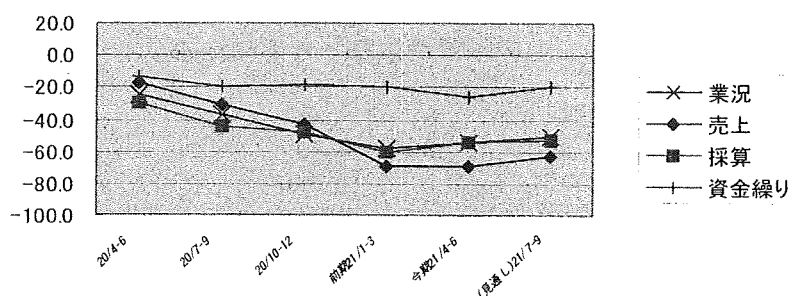
□ 資金繰りDI(3ヵ月前比)は大幅に悪化

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は前期の▲19から今期▲26と大幅に悪化している。これは昨年来の業績・採算の悪化から金融調達がやや困難になっていて資金繰りが悪化しているものとみられるが、対象企業変更の影響も考えられる。業種別にみると、すべての業種で悪化が続いている。

□ 従業員DI(前年同期比)は過剰感やや和らぐ

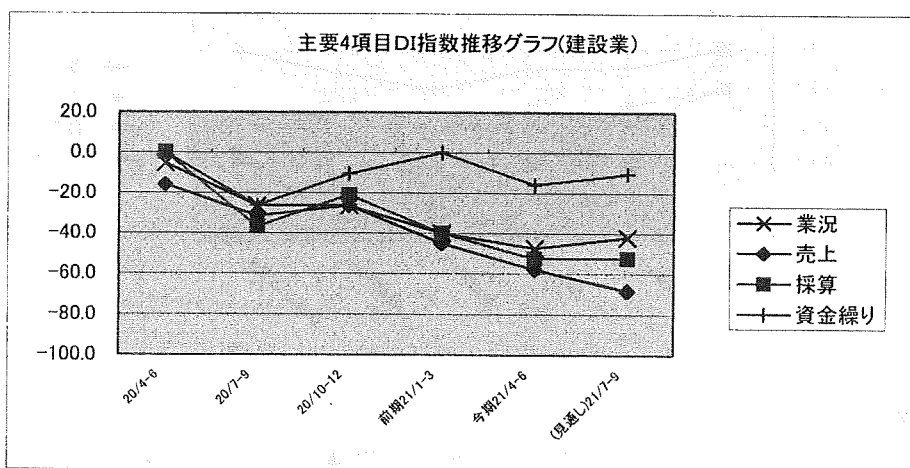
「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は前期の▲16から今期▲11と過剰感がやや和らいでいる。業種別にみると、製造業は前期同様▲40と人員過剰感が顕著で、建設業でも▲16と過剰になったが、他産業では和らいでいる。

主要4項目DI指数推移グラフ(全体)



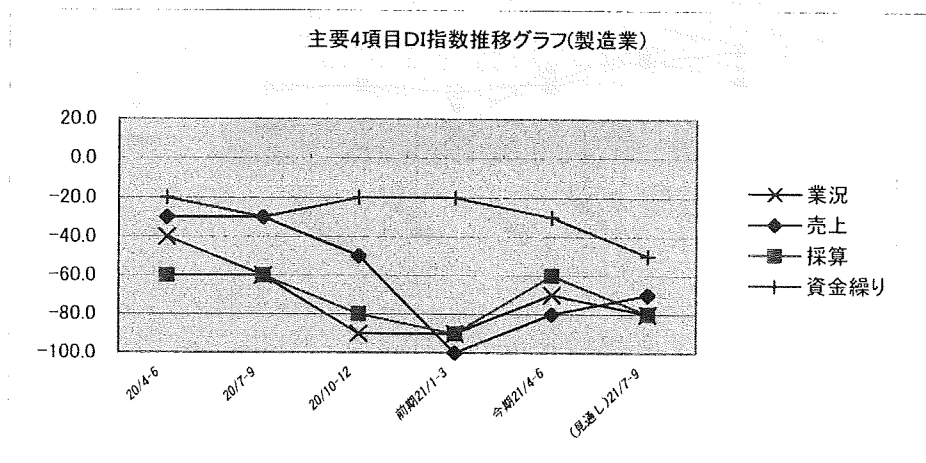
建設業

DI指数をみると「業況」は前期▲40から今期▲47とさらに悪化している。ただし過去の最悪水準▲65に比べるとまだその水準にはなっていない。個別指標をみると「売上」は前期の▲45から今期▲58とさらに受注が減少し、「取引の問合せ」は▲35から▲53と減少し続けている。「採算」は▲40から▲53とさらに悪化している。採算の悪化は下請工事業者の受注価格が不況の中、切下げられることなどが影響しているとみられる。この結果、「採算水準」は+10(黒字)から▲32(赤字)と大幅に悪化した。「従業員」は従来不足気味だったが今期▲16と過剰感が出てきた。「資金繰り」は±0(不変)から▲16に悪化した。



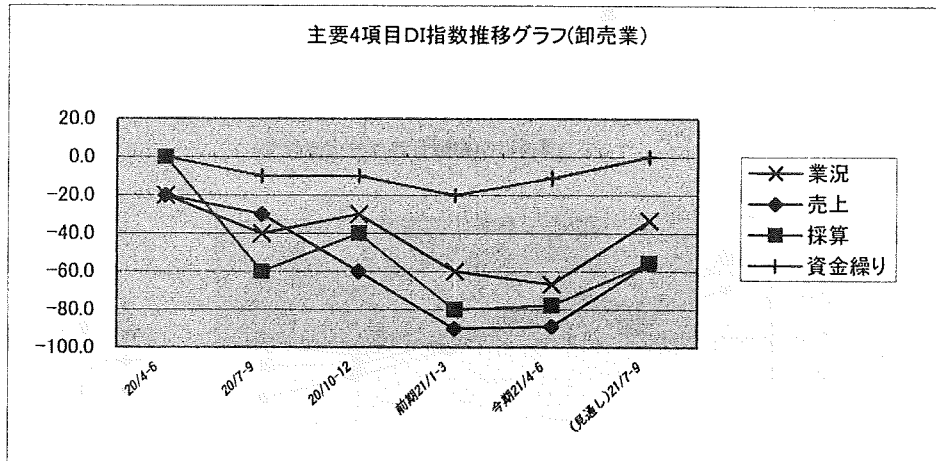
製造業

DI指数をみると「業況」は前期▲90から今期も▲70と改善した。「売上」は前期▲100から今期▲80と一部企業で改善した。「採算」は前期▲90から今期▲60と改善して「採算水準」は前期の▲50(赤字)から±0(収支トントン)に改善した。「従業員」は▲40から▲40と減産の中で人員過剰が続いている。「取引の問合せ」も▲80から▲80と最低の状況が続いている。「資金繰り」は▲20から▲30で悪化が続いている。業況の悪化は大手企業が減産、設備投資抑制等を続けているので中小製造業の受注減少が続いているためとみられる。



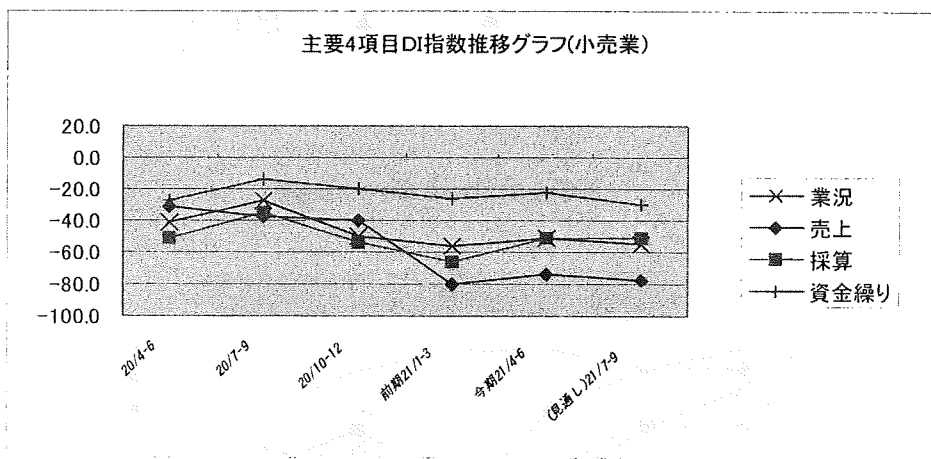
卸売業

DI 指数をみると「業況」は過去の最悪水準▲60 と並んだ前期をさらに下回り過去最悪となった。「売上」は前期▲90 から今期▲89 と引き続き大幅減少し、「取引の問合せ」は▲70 から▲56 とやや改善した。「採算」は前期▲80 から今期▲78 と悪化が続き、「資金繰り」も▲20 から▲11 と悪化が続いている。「従業員」は前期の▲40 から今期▲22 と過剰感は和らいでいる。



小売業

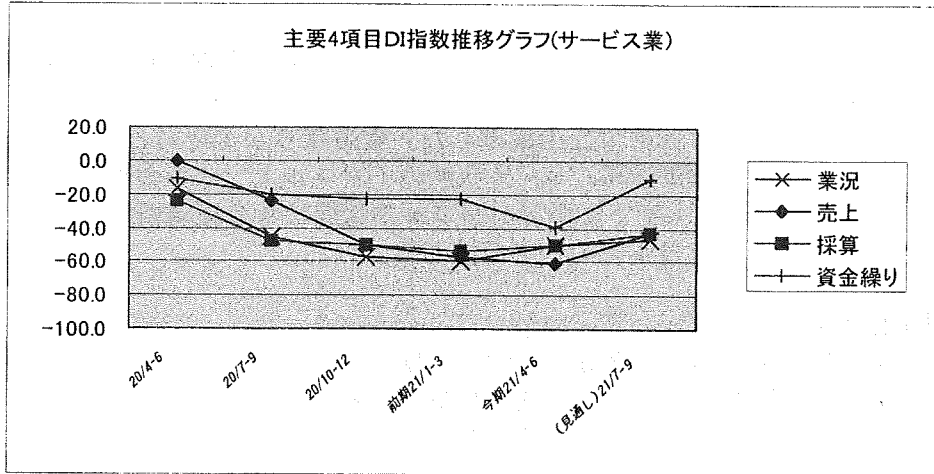
DI 指数をみると「業況」は前期の過去最悪水準▲57 から今期▲52 とやや改善したが低水準である。「売上」は▲80 から▲74 と低迷が続き、「採算」も▲67 から▲52 と悪化が続いている。「取引の問合せ」は▲67 から▲59 と低調である。「従業員」は▲20(過剰)から一転+4(不足)に転じた。「資金繰り」は▲27 から▲22 と悪化が続いている。県内の雇用情勢の悪化が個人消費に打撃を与え小売業にとって厳しい情勢になっているとみられる。



サービス業

DI指数をみると「業況」は前期の過去最悪と並ぶ水準の▲60から今期は▲50に和らいだ。しかし今回の調査期間中に発生した新型インフルエンザの影響で、特に飲食業に大きく打撃を与えたと思われ、「売上」は前期▲57から今期▲61とさらに減少し、「採算」は▲53から▲50と悪化が続いている。「従業員」は前期同様▲7で人員過剰感が出ている。「資金繰り」は▲23から▲39と大変厳しくなっている。

なお今回の結果は大幅に入れ替えた調査対象企業の影響もあるとみられる。



来期(3ヵ月先)の見通しについて、全体の「業況」は今期からさらに悪化幅が和らいで▲51となる見通しをしている。「売上」は▲62と悪化幅が縮小し、「採算」も▲53と悪化幅が和らぎ、「従業員」は▲4と過剰感が縮小する。「資金繰り」も▲19と悪化幅が和らぐ見通し。業種別にみると製造業と小売業で「業況」がさらに悪化するとみているが、その他の産業では悪化幅が和らぐとみている。

このように先行きやや改善を見込む見方が多いのは、国の経済対策等が一定の効果を上げて景気が下げ止まるという見方が新聞報道等でなされているためとみられる。ただし、中小企業の見方は小幅改善であり、特に製造業や小売業ではさらに慎重な見方をしている。

来期の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前期同様20%であった。製造業では前期も今期も40%で横ばい。設備投資をする企業の投資内容は合理化・省力化投資が32%で最も多く、生産力増強投資が21%、設備更新投資が16%である。また「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」とする企業が前期40%あったが、今期26%に減り、「景気動向によって見直す」が20%から63%に増え、設備投資において慎重な動きが続いている。

(中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は12社であった。

新型インフルエンザによる影響について

- ・急激な減少はありませんが、インフルエンザの影響等社会事情により、ある程度売上に反映しております。
- ・今回の新型インフルエンザの関連で更に悪化したように思います。夏を越して秋に更に悪化するのではと懸念しています。普通の生活が行える様、過剰な対策におちいることなく政府等は安心を与えて頂きたいと思います。
- ・新型インフルエンザの影響が大きなダメージを招いた。業況（自社）が好転している理由は不動産取得による賃貸収入の効果。旅館業そのものは苦戦を強いられている。
- ・インフルエンザの風評被害で売上激減した。資金繰りが大変厳しい。
- ・昨年のガソリン高、現在料高、等、又今年のインフルエンザ等の事柄に対しマスコミ等の情報にあおられて、すぐに市況がパニック状態になり経済情勢に大きな影響を与えてしまうのは非常に日本人の弱さを感じる。

景気対策について

- ・個人預金は増えている中、老後の安定した制度（年金や医療等）さえしっかりしていれば、不安なく消費が良くなり自然に景気がよくなっていくと思います。大変だと思いますがどうか無駄なところに税金を使われない様をお願い致します。
- ・このままいけば、全小企業が廃業におこまれるように思える。国も中心市街地活性化に資金（補助金）を出しているが資本主義社会においては、常にやりづらい結果が出ているように見えるので、国の政策を零細小売業に対して見直してもらいたい。
- ・経済と政治は別ものであるが、衆参ねじれ現象が長期化しており、土木、建築、等の公共事業はじめ種々の産業に選挙結果まで活動自制するような動きが出はじめているのではないか

景況感について

- ・不況という言葉もようやく鳴りをひそめ経済情勢も底を打ち世界的にも同じですが業種によりまだまだ時間はかかりますが、いつも云う事ですが、秋にはなんとか回復してくれると良いなと思っています。
- ・当方では工事受注が増加してきていますが、同業他社に聞くと工事受注が無いとの事ですので、当方の増加というのは一時的なものかもと考えます。
- ・弊社は仕事量としては昨年同様ですが、受取工事（材料も全て込みで工事全体でいくらが減少し、材料は元請持ちで人材のみの依頼が多く1人当たりの単価でいくので売上自体が減少。ただ、6月以降大手企業からの受注があり、この秋までの工事が入るため多少は好転になるか?!との見通し。

業界規制について

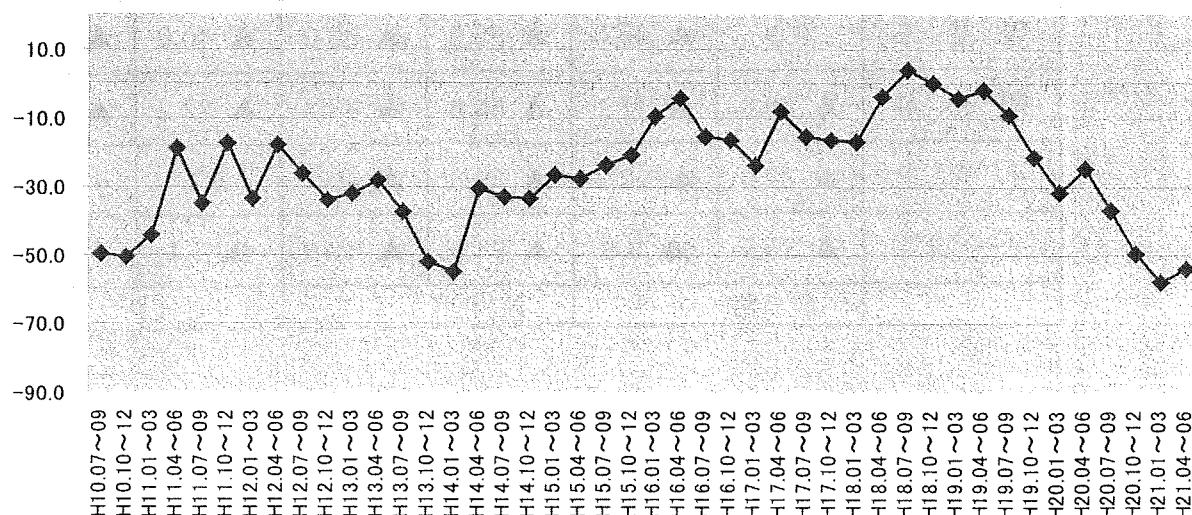
- ・「仕事の少ない時にさせてやっているんだから安くしろ」といった、半強制的な値引きの要請が多いと聞いている。こんな事では経済の立て直しどころではない。仕事をして適正な利益を得るのは当たり前であるのに、この当り前のことすら出来ない状況は異常である。大気業や地域の核となる企業など模範を指す企業が先頭に立って是正するような取り組みが必要ではないかと考える。

D I 指数一覧表

| | 業 況 | | 売 上 高 | | 採 算 (経常利益) | |
|-------|---------------|-----------------|---------------|-----------------|---------------|-----------------|
| | 4-6 月期 動 向 | 7-9 月期 見 通 し | 4-6 月期 動 向 | 7-9 月期 見 通 し | 4-6 月期 動 向 | 7-9 月期 見 通 し |
| 全 体 | ▲ 53.8 | ▲ 50.5 | ▲ 68.8 | ▲ 62.4 | ▲ 54.8 | ▲ 52.7 |
| 建 設 業 | ▲ 47.4 | ▲ 42.1 | ▲ 57.9 | ▲ 68.4 | ▲ 52.6 | ▲ 52.6 |
| 製 造 業 | ▲ 70.0 | ▲ 80.0 | ▲ 80.0 | ▲ 70.0 | ▲ 60.0 | ▲ 80.0 |
| 卸 売 業 | ▲ 66.7 | ▲ 33.3 | ▲ 88.9 | ▲ 55.6 | ▲ 77.8 | ▲ 55.6 |
| 小 売 業 | ▲ 51.9 | ▲ 55.6 | ▲ 74.1 | ▲ 77.8 | ▲ 51.9 | ▲ 51.9 |
| サービス業 | ▲ 50.0 | ▲ 46.4 | ▲ 60.7 | ▲ 42.9 | ▲ 50.0 | ▲ 42.9 |
| | 昨年の同期との比較 | | 昨年の同期との比較 | | 昨年の同期との比較 | |
| | 採算 (経常利益) の水準 | | 取引の問い合わせ | | 従 業 員 | |
| | 4-6 月期 動 向 | 7-9 月期 見 通 し | 4-6 月期 動 向 | 7-9 月期 見 通 し | 4-6 月期 動 向 | 7-9 月期 見 通 し |
| 全 体 | ▲ 31.2 | ▲ 18.3 | ▲ 61.3 | ▲ 47.3 | ▲ 10.8 | ▲ 4.3 |
| 建 設 業 | ▲ 31.6 | ▲ 31.6 | ▲ 52.6 | ▲ 52.6 | ▲ 15.8 | ▲ 15.8 |
| 製 造 業 | 0.0 | ▲ 30.0 | ▲ 80.0 | ▲ 80.0 | ▲ 40.0 | ▲ 40.0 |
| 卸 売 業 | ▲ 33.3 | ▲ 11.1 | ▲ 55.6 | ▲ 33.3 | ▲ 22.2 | ▲ 11.1 |
| 小 売 業 | ▲ 37.0 | ▲ 22.2 | ▲ 59.3 | ▲ 40.7 | 3.7 | 7.4 |
| サービス業 | ▲ 35.7 | ▲ 3.6 | ▲ 64.3 | ▲ 42.9 | ▲ 7.1 | 7.1 |
| | 該当期について | | 該当期について | | 昨年の同期との比較 | |

| | 資金繰り | | 長期資金借入難易度 | | 短期資金借入難易度 | |
|-------|-------------|--------------|-------------|--------------|-------------|--------------|
| | 4-6月期 動向 | 7-9月期 見通し | 4-6月期 動向 | 7-9月期 見通し | 4-6月期 動向 | 7-9月期 見通し |
| 全 体 | ▲ 25.8 | ▲ 19.4 | ▲ 11.8 | ▲ 12.9 | ▲ 6.5 | ▲ 6.5 |
| 建設業 | ▲ 15.8 | ▲ 10.5 | ▲ 5.3 | ▲ 5.3 | 0.0 | 0.0 |
| 製造業 | ▲ 30.0 | ▲ 50.0 | ▲ 10.0 | ▲ 20.0 | ▲ 10.0 | ▲ 10.0 |
| 卸売業 | ▲ 11.1 | 0.0 | ▲ 11.1 | ▲ 11.1 | 0.0 | 0.0 |
| 小売業 | ▲ 22.2 | ▲ 29.6 | ▲ 3.7 | ▲ 11.1 | 3.7 | 0.0 |
| サービス業 | ▲ 39.3 | ▲ 10.7 | ▲ 25.0 | ▲ 17.9 | ▲ 21.4 | ▲ 17.9 |
| | 3ヶ月前との比較 | | 3ヶ月前との比較 | | 3ヶ月前との比較 | |

本調査開始（H10.4～6期）以降 業況DI指数推移グラフ(全体)



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>